

さいたま市防災カルテ

常盤中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

- 【位置】浦和区の西部に位置し、中央区と隣接している。
- 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、北西部に団地、南部に警察署・市役所・消防局がある。
- 【交通】学区の中央部に国道17号と国道463号、東部にはJR東北本線が走っている。

◆学区の位置



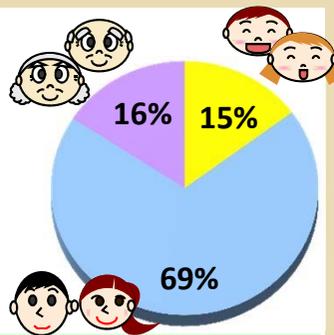
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.2)	6弱 (5.7)	6弱 (5.7)			
最小震度	6強 (6.0)	6弱 (5.5)	5強 (5.4)			
死者	29人 (0.1%)	1人 (0.0%)	1人 (0.0%)			
負傷者	139人 (0.5%)	26人 (0.1%)	23人 (0.1%)			
避難者	2,399人 (7.9%)	196人 (0.6%)	167人 (0.6%)			
全壊建物棟数	549棟 (11.6%)	26棟 (0.5%)	18棟 (0.4%)			
うち焼失棟数	248棟 (5.2%)	11棟 (0.2%)	5棟 (0.1%)			
半壊建物棟数	719棟 (15.2%)	196棟 (4.1%)	211棟 (4.5%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	常盤中学校区	全市平均
総人口	30,358人	
人口等		
0-14歳	4,503人 (15%)	(14%)
15-64歳	21,070人 (69%)	(67%)
65歳以上	4,786人 (16%)	(19%)
人口密度	15,017人/km ²	5,766人/km ²

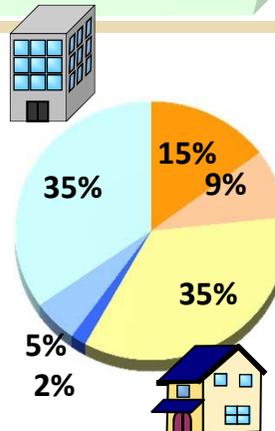


- 【地震】さいたま市直下地震では最大震度6強となっており、**地区の約25%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の数%にあたる建物は焼失**する恐れがある。
- 【水害】他の地域と比べ、**相対的には浸水被害の危険性は低い**。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度は高い**。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	常盤中学校区	全市平均
総建物棟数	4,739棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	694棟 (15%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	410棟 (9%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	1,647棟 (35%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	87棟 (2%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	254棟 (5%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,647棟 (35%)	(21%)



全市平均と比較すると、**非木造の建物の割合が大きい**。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	常盤中学校、仲町小学校、常盤小学校、常盤北小学校、埼玉大学附属小学校、仲町公民館、常盤公民館
一時・広域避難場所	浦和中央公園、常盤公園、浦和北公園、北浦和公園
市・区役所等窓口	市役所、浦和区役所
消防署・出張所	浦和消防署
警察署・交番	浦和警察署、北浦和駅東口交番、北浦和駅西口交番
救急病院	埼玉社会保険病院
応急給水場所	常盤中学校

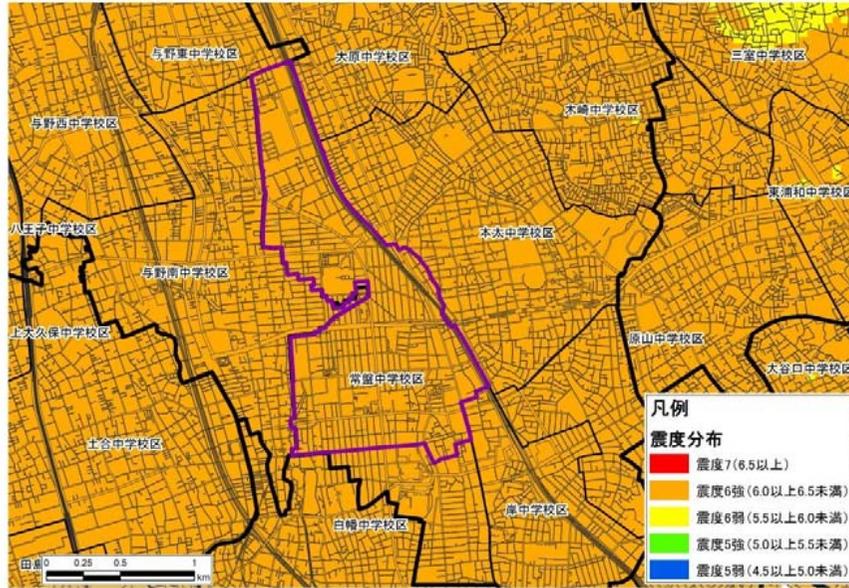
◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【避難】人口密度が高い地域のため、**円滑な避難誘導の実施が必要**。
- 【その他】地区内に非木造建築物が多いため、**エレベーターの閉じ込め防止装置(機能)の設置等の対策が必要**。

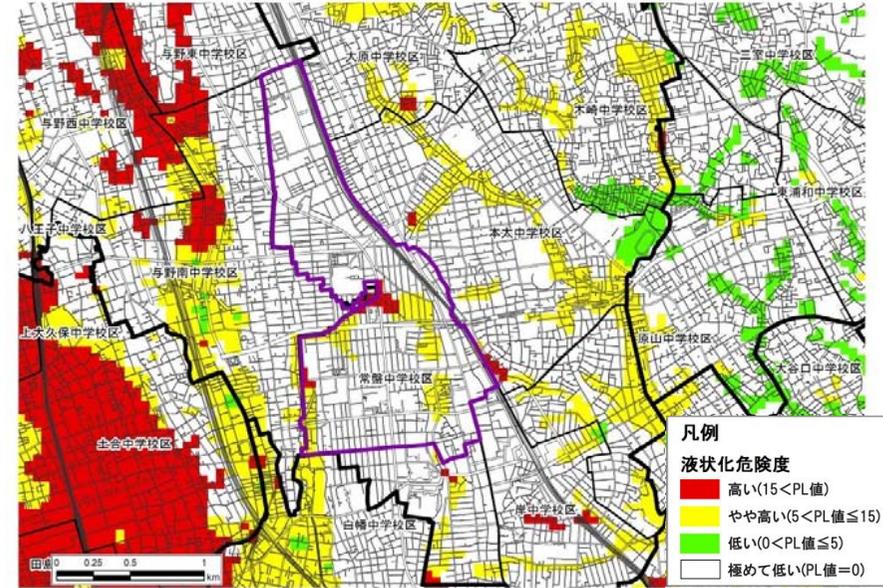
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

常盤中学校区

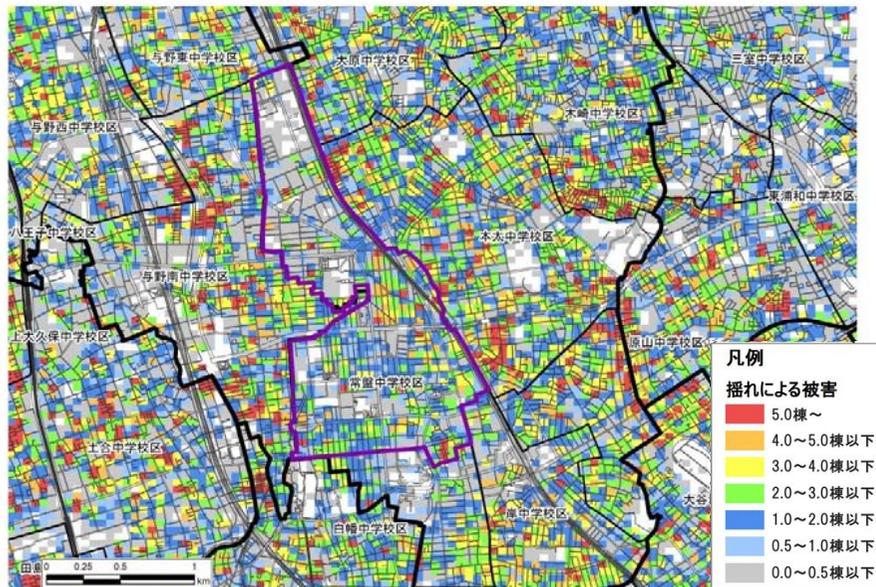
震度分布図



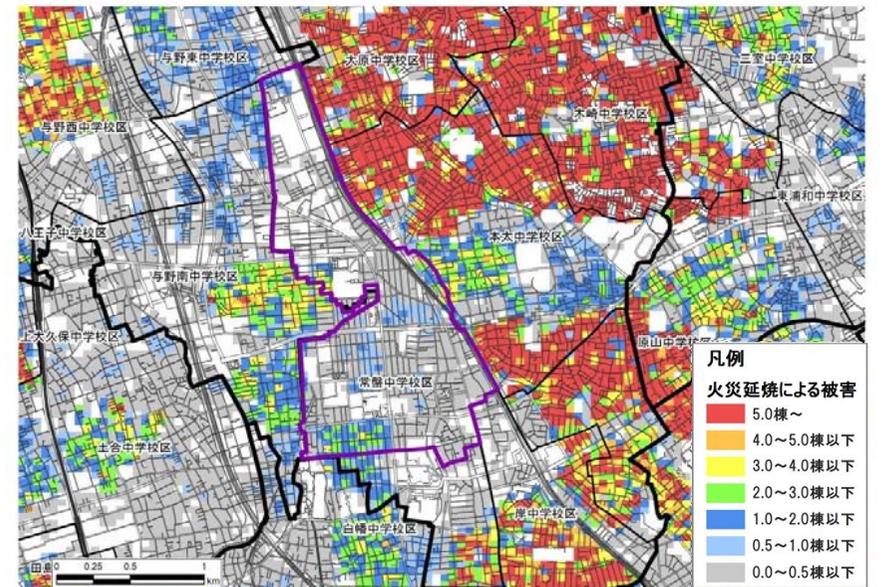
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）



本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

常盤中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

